

平成30年度(2018年度)地方創生推進交付金事業の検証結果について

交付金対象事業の名称		事業概要					
地域間連携による「稼ぐ力」・「新たな人の流れ」創出プロジェクト (久留米広域連携中核都市圏4市2町での広域連携事業)		久留米広域連携中核都市圏として、圏域が一体となって、地域資源を活かして、地域の稼ぐ力を最大限に引き出し、「しごと」の創生に取り組む。また、圏域の魅力を磨き上げ、訪問者や滞在時間を増やし、観光消費額の増加につなげる、観光の「稼げる産業化」に取り組む。 ■圏域の各市町の地域資源を活かした地域の稼ぐ力の向上 ■観光資源、産業、文化芸術・歴史資源など連携市町の各自の強みを生かした資源を磨き上げる ■新たな魅力の創造・発信による観光客獲得や定住人口確保に向けた取組展開					
事業開始	事業終了						
2018年4月	2019年3月						
実施内容	大川市事業費 (うち交付金額)	重要業績評価指標 (KPI)				大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会からの意見・提案	今後の方針
		指標	基準値	目標値 (2020年度)	2018年度 実績値		
<ブランド育成事業・インテリア人材育成事業> 実施主体:大川商工会議所への補助 ○「木のきもちブランド」について、新たに3作品を製作し、東京で行われたインテリアライフスタイル展、インターナショナルギフトショーに出展。 ○大川の家具産業に関わりを持つ人材を育てることを目的とした「大川家具職人塾」を開催。5名の塾生に対し、40日間開催し、アームチェア、ウィンザースツールの製作が行われた。	5,000,000 (2,500,000)	商品開発数【累積】(回)	0	20	16	・今後、職人等の人材育成、後継者の確保の費用対効果も含め事業継続について検討していく。 ・引き続き商品を増やしていくとともに、市内外の展示会、即売会、イベントに積極的に参加し、木のきもち事業活動及び木のきもち商品をPRしていく。	
<インテリア産業強化支援事業> 実施主体:(一財)大川インテリア振興センターへの補助 インテリア産業の底上げを図る事業を実施。 ○新商品・新技術開発支援事業・・・頑張る企業支援補助金、デザイン力強化対策事業 ○需要開拓事業・・・IFFT出展、ギフトショー出展、伝統工芸職人展 ○産地PR事業・・・産地PR誌による情報発信、HPIによる産地PR ○人材育成事業・・・技能者養成研修、デザイン甲子園 ○調査研究事業・・・地域材活用調査、インテリア産業関連統計資料 ○収益事業・・・公共建築物等の家具、備品等の受注促進	15,000,000 (7,500,000)					実施主体については、一般財団法人化したものの、収益事業の取組みが依然として弱い。今後は公益事業部分を大川市と一体となって取組み、センター職員の収益事業への特化を検討していく。	
<インテリア産業販売促進戦略構築事業> 実施主体:(一財)大川インテリア振興センターへの補助 ○【OKAWASHIP事業】 「デザイナーのための、素材と技術の展示会」を大川文化センターで開催 「プロユーザー集客のためのDMの作成や発送、レセプションやセミナーを開催 ○【TATEGUMI PROJECT】 若手建築家と建具事業者との出会いの場づくりを行い、4人の若手建築士と建具事業者4グループが、新たな建具による空間づくりによって、建具による空間の可能性を模索するモノづくりに取組み、福岡三越ライオン広場にて展示会を開催。併せて、OKAWASHIPと合同展示を行った。 ○【地域商社プロジェクト】 地域商社あり方研究会を発足し、先進地での「つやま産業支援センター」を視察し、事例を研究した。	35,600,586 (17,800,293)	インテリア関連産業の生産高 (億円)	366	500	工業統計調査結果公表待ち【参考】 (H28)384	・KPIの数値の把握が公表時期は検証時期より後になるものがあるため、可能な限り何らかの数値を出すようにしてほしい。 ・開発した商品について、市内で実物を見れる場所(テラツツア等)がほしい。 ・今後、ブランド品についての知財に関して検討していく必要があると思われる。 ・シティセールス及び観光分野については、成果は上がっていると思われる。インテリア産業関連については、KPIが把握できていないものもあるが、個別に判断すれば成果が上がってきていると見られる。課題も一部あるので、その点については検討しながら今後の取り組みを行ってほしい。	
<海外販路開拓調査研究事業> 事業主体:(協)福岡・大川家具工業会への補助 ○海外販売(輸出)を目標として、台湾やタイの市場調査及び海外(東アジア)バイヤーの展示会招致中国上海百貨店での展示即売事業を実施した。	2,500,000 (1,250,000)					今後は受注・発注の窓口の一本化や受け入れ体制の整備が必要である。	
<家具展示会事業> 事業主体:(協)福岡・大川家具工業会への補助 ○産地大川で展示会を開催(年4回) 産地「大川」において展示会を開催することで市内事業者の展示会への出展を容易にし、営業活動の促進及び販路拡大と併せて、産地の技術向上、競争力の強化を図る。さらには、家具関連企業や消費者に産地としての技術力の高さをアピールすることで販路拡大及び競争力強化を図る。	5,000,000 (2,500,000)					年4回開催の展示会においても、これまでのバイヤーと異なる新たな業種のバイヤーの販路開拓をする必要がある。	
<アンテナショップを活用したシティセールス事業> 年間を通じた大川市ブランディングCMのTV放映、九州6県での「大川木工まつり」PR、職人MADE大川家具のホームページリニューアル、ふるさと納税を活用した特産品のPR、レストラン・式場「八芳園」(東京都白金台)でのPRイベントの開催や関東圏でのネコ家具イベントなどを行い、情報発信、知名度向上を図った。	50,000,000 (25,000,000)	メディア登場回数(回)	100	300	390	今後、ネコ家具の製作過程を伝える「ネコ家具LAB!!」を開催。動画・WEB・展示を通じて大川家具の魅力を発信し、ファン作り・ブランディングに繋げ、情報発信を強化する。また、インバウンド対策としてホームページの多言語化に取り組む。	
<インテリア産業・観光の情報発信拠点> 「大川市観光・インテリア情報ステーション 大川テラツツア」の施設維持管理を実施した。	856,791 (428,395)	昇開橋来訪観光入込客数(人)	56,000	80,000	75,864	観光情報発信施設として引き続き実施する。	
<マイスターツーリズム推進事業> 実施主体:大川観光協会への補助 ○大川のモノ作りを体験していただくイベント「クラフトマンズデイ」を開催。27の事業所で工場見学を実施、14の事業所でワークショップの提供を行った。 ○平成29年4月にオープンした大川市観光・インテリア情報ステーション「大川テラツツア」において、来訪者への観光案内、家具買い物客の案内、ワークショップの提供を実施。 ○テラツツアイベントとして、1周年記念イベント、ビアガーデン、ニューイヤーイベント等を実施した。	17,000,000 (8,500,000)	大川市観光入込客数(万人)	68	80	76.4	モノ作りの魅力を肌で感じていただくには、工場見学やワークショップのイベントは有効な手段であり、今後、消費者が常時体験できるシステムの構築に努め、テレビCM・リーフレット・看板等、大川テラツツアのPRを工夫し集客を図る。	

交付金対象事業の名称		事業概要					
県民総活躍社会の実現プロジェクト (福岡県及び関連市町との広域連携事業)		高齢者、女性、障害のある人、若者など多様な主体が、それぞれの能力を発揮しながら、地方創生を担う人材として活躍する全員参加型の社会を目指す。 ■多様な主体が活躍する地域社会の実現に向けて、県の地域振興プロジェクトと連携して、筑後七国の観光・物産PR事業を実施					
事業開始	事業終了						
2018年4月	2019年3月						
実施内容	大川市事業費 (うち交付金額)	重要業績評価指標 (KPI)				大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会からの意見・提案	今後の方針
		指標	基準値	目標値 (2020年度)	2018年度 実績値		
<<福岡ソフトバンクホークス・ファーム本拠地を活用した筑後七国の活性化>> 実施主体:筑後七国活性化協議会(構成団体:筑後市、柳川市、八女市、みやま市、大川市、大木町、広川町) HAWKSベースボールパーク筑後での筑後七国物産展「筑後七国フェスタ」の開催、季刊情報誌等の観光情報発信、スタンプラリー、着地型観光ツアーの実施。	568,000 (284,000)	大川市観光入込客数(万人)	68	80	76.4	なし	近年、インバウンドをはじめ広域による観光振興の取り組みが重要性を増している。引き続き筑後七国活性化協議会に参画し、魅力ある素材の発掘やツアールートの開発等、観光誘客に向け連携して取り組んでいく。